

2021-1-31

ふじさわ・九条の会ニュース

No.63



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

菅政権の正体 そのII

スガヨシヒデの言語能力

前号ニュースで、私は菅首相が説明しないことを付度を加速させる手法かも知れないと書いたが、そうではなく本当に説明する能力がなく、また説明する気持ちもないのだと思うに至った。国会では官僚のメモなしでは答弁ができない。何人もの質問者への答弁が余りに簡単であり、質疑時間を大幅に残して散会してしまう。これには自民党の側からも「もう少し丁寧な答弁をするように」と注意される始末である。

たまにしかやらない菅首相の記者会見では質問は一人一問に限定し、追加質問は「お控え下さい」というものだ。何人もの手を挙げて質問の意志を示しているのに「次の日程がある」と会見を打ち切り、背中を向けて歩み去って行く映像を私たちは毎度見せられているのだ。

コロナをほぼ制圧したニュージーランドでは、アーダーン首相が国民に向けて、定時に毎日現状を詳細に伝えることをしている。同じく台湾ではコロナ対策の担当部署職員が、記者からの質問が尽きるまで何時間でも答えるという会見を行っている。また発足したばかりのバイデン政権のジェン・サキ報道官は「政府に透明性と真実を取り戻す。自由で独立した報道の役割を深く尊重する。政権とメディアには共通の目標がある。国民と正確な情報を共有することだ。」として会見をスタートした。政府の対応の違いもマスメディアの姿勢も、彼我の余りの違いに啞然とするが、これが我が日本の現状なのだ。

スガヨシヒデの嘘

ようやく開かれた国会での答弁で菅首相は「(go to トラベルで) コロナ対応が後手になったとは思わない。国の負担でPCR検査を実施できるように、自治体が躊躇なく取り組めるようにしている。医療機関には多くの支援をしている。」と言ったが、これらは全て嘘である。将に菅政権はアベ政権を引き継いでいる。菅首相の「対応は遅れていない」というのはコロナウイルスにお手上げ状態であることの隠蔽である。一方で法律を改悪して入院拒否に刑事罰を科すというのである。入院できずに自宅待機のまま、何人もの人が死んでいるのに、入院拒否したら懲役刑だとはおよそ正気の沙汰ではない。

所で我が神奈川の黒岩知事は「もう保健所は入院調整はできない。救急車を要請しても受け入れ病院は探せない。パルスオキシメーターを貸すので自分で管理してくれ。感染経路調査も縮小する。」と公言した。これはコロナにお手上げ状態であることのあからさまな表明である。

なお菅首相は「ワクチン接種が出来るようになれば、国民の意識も変わる」と言っていたが、国会では「ワクチン接種がなくとも安全安心な大会を行えるようにする」とワクチン接種なしでも「特攻オリンピック」をやる方向に舵を切った。15年戦争を遮二無二推し進めた軍部大本営の再来を、私たちは目の当たりにしているのだ。

(吉塚晴夫)

「安保関連法⇒戦争法」が強行採択されてから5年 — 抗議の火を絶やさないスタンディング —



2015年9月19日早朝、私はラジオを片手に自転車にまたがり辻堂駅に向かっていました。通勤に急ぐ市民に「戦争法の強行採択」の様子を訴えるために駅で待っていた仲間に合流した。

その前日は夜遅くまで国会の立憲野党に向けて「野党は共闘！野党は共闘！」と叫び続けていた。その夜、国会周辺は雨が降り始めていたが、誰もそれを気にすることなく国会へ向けて声を限りに叫び続けていた。10時を過ぎたころ私は「60年安保」を思い起しながらそこに残っている「若い人たちにお願いしよう」という気持ちで家路についたのだが、その数時間後の深夜にこの法案は強行採択されてしまった。国会に招致された自民党推薦の憲法学者も含めてほとんどすべての憲法学者が憲法違反だと指摘したにもかかわらず、また地方の公聴会を途中で打ち切る形で国会審議を進めるという異常な状況下での強行採

択であった。

辻堂駅でひとしきり憲法違反の戦争法成立について市民に訴えた後、私は駅を離れて自転車に乗っていた。「上を向いて歩こう～涙がこぼれないように・・・」私は小さく唇を動かし、涙を拭いていた。しかし家に着いた時、私は感傷的な涙だけで終わらせてはいけないと考えていた。前日、「野党は共闘」を叫んだ市民として感傷に浸っている暇はないと思ったのだ。そして翌20日から誰に相談することもなく、毎日「抗議の火を絶やさない」スタンディングを開始することにした。

1人で始めたスタンディングであったが、私1人ではなかった。2日目からは3人、5人と仲間が増えていったので、9月20日から10月18日までは毎日スタンディングを続けることが出来たと思う。（その後毎週1回の月曜スタンディングになって今に至る）

スタンディングへの反応

— あのおじさん、何しているの・・・ —

通行人の反応であるが、リュックに吊り下げた「アベ政治を許さない」のカードを指しながら「俺も仲間だ」と無言で意思表示をしたり、こぶしを上下させながら笑顔で通過す

る人や直接話しかけたり飲み物を差し入れてくれる人などがいる。もちろん私たちのスタンディングに文句を言う人もいるが、これも一つの反応であろう。



しかし大多数の人々は私たちの方を見向きもしないで通っていく。そうした中であって次のような会話に私は勇気づけられ、暑さ、寒さにも耐えて抗議の火を絶やさず続けている。

スタンディングを始めてから数日後のこと、私の前を男の子を連れた女性が通過した。階段を降りかけた男の子が「あのおじさん、何しているの」と女性に問いかけた。すると

女性が歩みを止めずに「戦争はダメといっているのよ」と答えた。男の子は私の顔を見て急いで階段を降りながら「戦争…」と女性に聞いているようだったが、あとは聞こえなかった。この女性はサンパール広場で私の前を通り過ぎる時に私の方を一回も見えていなかったのだ。それなのに私の訴えを理解してくれて男の子の質問にきちんと答えていたのである。

「野党は共闘」の今

2015年9月、国会周辺で叫び続けた「野党は共闘」の声は今どのように結実しているのか。戦争法の強行採択以後、毎月これに抗議し戦争法の廃止と立憲主義の回復を求めて19日行動が国会前で行われているが、そこには必ず立憲野党の議員が来て連帯のあいさつをしている。

安倍元首相は退陣に当たって次のようなことを語った。「(改憲の) 国民的世論が十分に盛り上がらなかったのは事実。それなしに(改憲を) 進めることはできないと痛感している。」「志半ばで職を辞することは断腸の思い」。安倍にこのように言わせたのは市民と野党が共同して長期にわたって戦い続けた結果であると思う。国会の中では立憲野党が共同して数々の政策提言をしている。また202臨時国会の首班指名選挙で立憲野党がすべて枝野幸男立憲民主党代表に投票したことは野党共闘の前進であり、これは野党統一候補を生み出す基盤となるものである。(斎藤隆夫 2020年10月1日記)



〈お知らせとお詫び〉この記事は前号の3頁4頁に掲載予定でした。印刷発注の際、編集担当のミスでこの2頁分が抜け落ちて掲載できず、今号での掲載になりました。お詫びします。

— 1月22日 核兵器の終わりが始まった — 核兵器禁止条約発効

核兵器禁止条約発効に必要な50カ国の批准が昨年10月に達成し、条約発効日が1月22日に決まりました。1月24日現在52カ国になりました。

私は50ヶ国に達成したその日まで、世界地図に、批准した国の色塗りをしていました。小さな国や、初めて名前を聞く国など、毎日ニュースを見てワクワクしていました。そして批准が決まったら、盛大にお祝い集会をしたいと思っていました。私は50カ国が批准した日、1枚のカレンダーに1文字ずつ、13枚の紙（いわさきちひろカレンダーの裏面）を使って太筆で「祝核兵器禁止条約発効、日本も批准を」と書いた横断幕を作りました。横断幕のデビューは私の所属する新日本婦人の会と原水協が共同で毎月行う署名行動日、11月7日でした。

いよいよ1月22日、ピースリレーに所属している市民団体が中心になり、藤沢駅南口で宣伝行動をしました。その日は春のように暖かく、ママと3歳のおじょうちゃんから93歳の方まで43人が参加しました。新聞社やタウン紙の方も取材に来てくれました。

93歳の川崎さんは江ノ電九条の会の代表でコロナ禍の中、会の方と協力して「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准」を250筆集めて、持参しました。マイクを握り「私は戦争経験者です。絶対に戦争をしてはいけません。核兵器は作っても使ってもいけません。その思いでこの署名を訴えました」と強い口調で語られました。

核兵器は国際法の下で初めて違法となります。この条約の第1回締約国会議は、条約の発効から1年以内開催されることとなっています。条約を推進してきたオーストリアが首都ウィーンでの開催を目指しています。日本は世界で唯一の戦争被爆国です。日本政府はオブザーバーでもいいです。ぜひ参加し、今なお、苦しんでおられる被爆者の実情を訴えてほしいです。

九条守ろう！平和の運動はこれからも続きます。
(小柳 倫子 2021年1月24日記)

沖縄からの報告 久保 博夫

宮古島市長選でオール沖縄が勝利！現職を破る

オール沖縄は首長選で敗戦が続き苦戦と思われた宮古島市長選は、オール沖縄勢力が支援した新人の座喜味一幸氏が、政府与党の支援を受けた現職の下地敏彦氏に3千票近くの違いをつけ勝利しました。2月7日の浦添市長選、4月25日のうるま市長選に向け弾みがつき、2022年の県知事選の見通しが出てきました。

同時に行われた宮古島市議会議員補欠選挙(定数2)では、お父さんが市議だった下地茜氏が、地元の城辺保良で進められる陸自弾薬庫建設に反対、市長選では新人の座喜味氏を支持しダントツのトップ当選をはたしました。

石垣島に初めて行ってきました。自衛隊の建設地を夫婦で反対している川崎から地元に戻った郵便局員に案内してもらいました。入口に屋根付き監視移動車を作っていました。岩を砕いて平らにしたり、沼を埋めて平らにしたりと土木工事がすごいです。

辺野古現地では運動が続く

効果的な支援を！（藤沢のカンパ 届けました）

埋め立土砂に人骨が混じる糸満の土を使わせてはならない！

